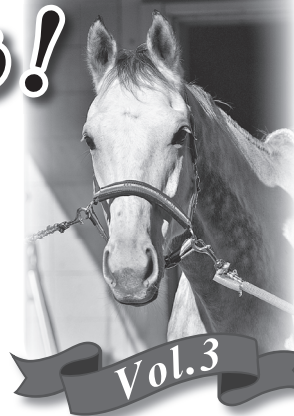


ドレッサージュホースに育てよう!



❧ 駢歩運動の改善 ❧

駢歩運動の改善は、動きが大きくなるため速歩運動よりも難しいと言えます。オースミイレブン号の問題点は、馬体が長く後躯を沈下させてくいたため、収縮が難しいところです。馬場馬術用馬としては厳しいところですが、サラブレッドではよくあることです。サラブレッドは、伸展運動を繰り返すことを得意としているためと考えられます。そのため、乗用馬として生産された馬よりも後躯の踏み込みなどの点では劣ります。しかもこの馬は、頸差しが低く、バランスも前方に掛かり気味の典型的なサラブレッドと言えます。

また、競走馬にとってゆっくりとした駢歩をすることは簡単なことではありません。馬によっては段階を踏みながら時間を掛けないと、このようなゆっくりとした駢歩にはならない場合もあります。

この馬は、右手前に比べ左手前が前方にバランスを崩す傾向があります。このように、左右対称であることはほとんどありませんので、苦手な手前ほど対策を講じなければならないでしょう。私なりの対策についても追々ご紹介します。

さて、馬場馬術の運動を行うには、駢歩の中でもバランスを起こしていかなければ様々な運動を行うことはできません。そのため、バランスが起きた基本的な駢歩へと改善することが必要になります。サラブレッドを再調教する上で、駢歩のバランス改善は避けて通れません。その方法を以下の通りいくつかまとめてみました。

① 常歩で後肢の踏み込みを促しながら頭頸を起こしていく

駢歩をしながらバランスを起こそうと試みる前に、常歩運動で可能な限りのことを行います。常歩は最も馬に騎手の意図が伝わりやすく、馬も扶助に反応しやすい運動です。そのため、常歩でバランスを起こすため、後肢を自分のシートの真下（後肢の馬体下への進出）へ入るように促します。単なるゆっくりとした常歩ではなく、騎手の騎座に馬体のパワーを溜めるイメージで後肢を活発に踏み込ませ、ピアップフェを求めるかのように常歩する気持ちでもよいでしょう。

もし、馬が前方にバランスを崩しているのなら、馬の頭と頸を馬自身が支えるようにさせます。そのためには、騎手は拳の扶助を最小限にし、ハミ受けした体勢よりも起きたバランスを優先させます。鼻面が前方に出たとしても構いません。バランス一番、ハミ受けはその後、と考えても良いでしょう。

② 駢歩発進してスピードだけではなく、ゆっくりの駢歩を意識する

駢歩のペースはできるだけゆっくりにします。しかし、ただゆっくりするだけではなく、3節の駢歩を意識します。4節になれば、半減却を使い前進氣勢を増し、活発な駢歩を求めます。前へ出すパワーを脚で促し、それを騎手のシートと拳を連動させながら前へ行きにくくします。「脚で前へ行け！ シートと拳で前へ行くな！ 後肢は馬体下へ進出して来い！ 頭頸は起きていいから減却したら拳は譲る！ でも、下顎は譲ってほしい、内方姿勢はとるから丸くならう！ この体勢を自分でキープしましょうね！」こんなことを心の中で繰り返しながら馬と会話し、馬の状態を見ながら扶助の強さを調節していきます。

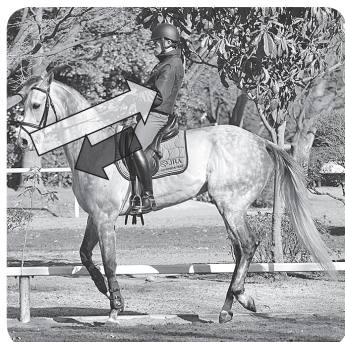
③ 駢歩を長時間継続して行わず、駢歩から常歩への移行をできるだけ多く繰り返す

悪いバランスで駢歩を長時間続けていると、元々バランスが前のめりの馬は益々悪い体勢になってしまいます。移行を多く繰り返すという方法は、悪い状態になってしまう前に常歩に落とすという理由もありますが、1歩目からストライドの狭い駢歩をつくっていくことにも繋がります。なぜなら、駢歩から常歩の移行を多く繰り返すことによって、駢歩を発進しても直ぐに常歩が待っていると馬が思い始めてくると、駢歩を積極的に前のめりになって行うよりも、歩幅を詰めてバランスを起こし、常歩に備えたほうが良いと馬が考えるようになるからです。

④ 駢歩の動きの中の空間期で馬をつめる

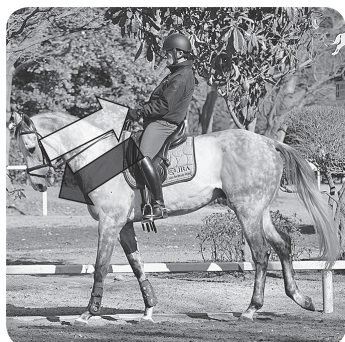
これは、②の意識を馬の動きの中で行いやすいタイミングで利用するものです。駢歩の動きの中で、馬が地面を踏み切って空中に浮かぶ時に馬体に力を溜めるようにします。簡単に言えば、馬の頸が自分に近づいて来るときのタイミングで手綱を控えて収縮させます。このタイミングとは逆に、地面に肢が着いて前に出て行こうとするタイミングで手綱を控えてしまうと、馬はハミにぶつかり前進氣勢が失われるだけでなく、ハミ受けを初めとする全ての調和が乱れてしまいます。

3



空間期に入る瞬間の状態では、やや手綱を引き寄せるように使い、馬の頭頸を高い位置に保つようにする

2



左前肢を着き、空間期に入る体勢になってきているため、騎座の推進をしながらも、馬がバランスを戻す動きに沿って手綱を控えて馬を起こす

1



空間期に入る前で、騎座の前進への推進があり、手綱はコンタクトを保つのみに留める

ここで注意したいのは、手綱を控える度合いや騎座を使う割合です。馬が運動をしようとする気持ちを阻むような力加減の扶助を使用するべきではありません。騎手に求められることは、前進しようとする馬の気持ちを尊重した中で行なわれるべきであり、全ては調和の中にあります。その感覚までも言葉にすることは難しいです。是非、馬の動きや反応、そして気持ちを自分自身で感じ取ってみてください。